

1

### 自衛隊「南西シフト」は何のため？ それは必要悪か？

- ・「島じまを守る」ための軍事配置ではない
- ・「日本を守る」ための軍事配置ですらない

→では、何のため？

2

アメリカの軍事戦略の一部としての、自衛隊「南西シフト」

- ・「アメリカの主権（領土・領海・国民）を守るための軍事配置でもない

→では、何のため？

3

### アメリカの軍事戦略…「国防」「安全保障」という言葉に騙されてはいけない

- ・**覇権（ヘゲモニー hegemony）という概念を共有する必要性**
  - ・覇権保持は「侵略」だけではなく「威圧」という手段も使われる
- 戦後、アメリカはどのように東アジアを「威圧」してきたか？

4

「核攻撃恫喝」から「海洋封鎖恫喝」へ……威圧戦略の転換

- ・1953年、アメリカは中国と朝鮮（共和国）に核攻撃の恫喝＝
- ・恫喝された中国と朝鮮は対抗的軍拡を選ぶ→軍事緊張状態に
- ・ソ連崩壊後、中国への「核攻撃戦略」（エアシーバトル戦略）※全面核戦争のリスクが生じる戦略
- ・限定地域戦争戦略（オフショア・コントロール戦略）への転換  
＝海洋封鎖戦略、中国の商用船が太平洋に出られないように海峡封鎖  
＝戦場は「島じま」に限られ、ワシントンや北京は無傷になる軍事戦略

5

### まとめ；「南西シフト」は必要悪ではなく、ただの悪、不要悪

「武器より暮らし」というスローガンでは不十分。「武器ではなく暮らし」

（補足その1）

#### 威圧戦略→軍事緊張常態化は、戦争に至らなくても有害、民主主義を壊す、「非平和」を生み出す

- ・「安全保障のため」という大義名分で、人権制限が正当化される
- ・「安全保障のため」という大義名分で、軍事産業育成→「死の商人」国家に  
※イスラエル製「殺人ドローン」など武器輸入、武器共同開発
- ・政権批判する市民に「××国のお仲間」といったレッテルを貼り、侮辱し、人権を奪う
- ・アメリカと中国の為政者、敵対しているように見えて「共依存」関係では？

（補足その2）

#### 上記1～4が広く共有されていないと、「安全保障」詐欺に騙される

- ・覇権保持のための軍拡なのに「安全保障」のためとウソをつき続ける
- ・軍事緊張を生み出し、中国・朝鮮の軍拡を誘発したのはアメリカ（+日本）なのに  
「他国に攻め込まれたら……」という議論で、軍拡を正当化する ※いじめた相手に反撃されたいじめっ子が「A君が暴力を振った！」と言いふらして回っている状況に近い

（補足その3）

「戦争ではなく話し合いで」はもちろん正しいのだが、その際に台湾を無視しないこと